

麻酔科学における患者安全に関するヘルシンキ宣言

Jannicke Mellin-Olsen, Sven Staender, David K. Whitaker and Andrew F. Smith

麻酔、周術期ケア、集中治療医学、疼痛治療と救急医学を含む「麻酔科学」は、常に患者安全を改善する系統だった試みに取り組んできた。麻酔科医は、患者ケアの安全性と質に影響を与える、独特の専門横断的な立場にいる。過去に麻酔科医が積み上げてきた実績から、我々の専門分野は安全になってきたと言っても、まださらになすべきことがあり、自己満足している状況にはないと認識なされている。患者がより高齢に病的になり、手術がより複雑になり、新しい薬と器具や一回きりの機会に対応する処理能力に対しさらなる圧力がかかる状況があり、これら全てが麻酔科医の業務にリスクをもたらしている。このますます難しく複雑な作業環境に比べて、ヨーロッパ麻酔委員会(the European Board of Anaesthesiology (EBA))は、ヨーロッパ麻酔科学会 (the European Society of Anaesthesiology (ESA))と共同で、麻酔科学における患者安全のための青写真を作成した。「麻酔科学における患者安全に関するヘルシンキ宣言」として知られるこの文書は、2010年6月にヘルシンキで開催されたヨーロッパ麻酔科学会において、世界保健機関(WHO)、世界麻酔科学会連合 (the World

Federation of Societies of Anaesthesiologists (WFSA))とヨーロッパ患者連合(the European Patients' Federation (EPF))とともに、EBAとESAによって承認された。本宣言は、2010年時点での麻酔科学における、患者安全を改善するために必要で、価値があり、そして達成可能なヨーロッパにおける共通見解を表している。宣言は、まだそれらを取り入れていない麻酔科医が誰でも、彼等の臨床業務にうまく取り入れられるようにする実際的な手順を推奨している。同時に、EBAとESAは、これらの推奨を実行に移すため、共同の患者安全作業部会を立ち上げた。そしてこの宣言文は定期的に再検討されるように計画されている。

Eur J Anaesthesiol 2010、 27:592-597
キーワード： 教育、患者安全、周術期管理、標準

Received 15 March 2010
2010年3月15日受領
2010年4月9日改訂
2010年4月19日受理

ヨーロッパ麻酔科学委員会/UEMS (JM-O)、ヨーロッパ麻酔科学委員会の患者安全委員会 (DKW)とヨーロッパ麻酔科学会の患者安全作業部会(SS、AFS)から受領

担当窓口：Dr Jannicke Mellin-Olsen (Department of Anaesthesiology and Intensive Care Medicine, Baerum Hospital, Vestre Viken Health Authority, P.O. Box 83, N-1309 Rud Oslo, Norway)

E-mail: mellinolsen@gmail.com

0265-0215 2010年著作権：ヨーロッパ麻酔科学会 DOI:10.1097/EJA.0b013e32833b1adf

著作権：ヨーロッパ麻酔科学会 無断複製禁止